

令和6年度 授業改善推進プラン 中学年

	令和5年度授業改善プランの検証と調査結果の分析 (○はおおむねできていること、△は課題があること)	授業改善策 (○よいところを伸ばすための方策、△課題を解決するための方策)
国語	<p>○互いの考えの相違点や共通点を考えながら話したり、聞いたりする活動に意欲的に取り組むことができる。</p> <p>○登場人物の気持ちについて、叙述を基に読み取ることができるようになってきている。</p> <p>△自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することに課題がある。</p> <p>△漢字を正しく読んだり書いたりする力に課題が残る。</p>	<p>○意欲的に話すことができる場やテーマを設定する。また、相手意識をもたせる。理由や事例などを挙げて話の中心が明確になるように話をしたり、聞いたりできるように意識させる。また、自分の考えをペア、グループ、全体で交流する時間を確保し、伝える力や、共通点や相違点に気を付けて聞く力を伸ばし、自分の考えを広げられるようにする。</p> <p>○物語文の学習で、登場人物の行動や会話など叙述を基に気持ちを考える学習を引き続き行っていく。また、音読の練習を通して内容をしっかり理解できるようにする。</p> <p>△引用の決まりについて理解させる。また、考えや調べたことを紹介する文章を書く際には、時間をしっかり確保し、書き終わった後には、読み返し正しく直す力を付けていく。他教科でまとめ学習をする際などにも、引用の学習と関連付けて書く習慣を付けていく。</p> <p>△漢字の定着のため、学習の始めにデジタル教科書の漢字カードを使って漢字を確認したり、書く時間を設けて、漢字を継続的に学習したりする環境を作る。また、漢字を丁寧に正しく書く習慣を付けさせ、学習内容の定着を図る。</p>
社会	<p>○地図記号を正しく覚えている。</p> <p>○工業の様子や流通の工夫について、複数の資料をもとに判断している。</p> <p>△地域の安全を守るための活動や地域の産業と消費生活の様子の理解について課題がある。</p> <p>△資料に着目して、事実を的確に読み取ること課題がある。</p> <p>△ダムの働きや仕組み、清掃工場の仕組みの理解について課題がある。</p> <p>△節水のための工夫や防災倉庫の設置の目的について考えることに課題がある。</p>	<p>○地図記号については、タブレットで楽しく覚えられるような教材を用いたり、慣れ親しむ場を設定したりすることで児童の興味や関心を高められるようにする。</p> <p>○複数の資料（地図と文章など）を提示し、根拠に基づき適切に判断する場面を意図的に設定していく。</p> <p>△ICTを活用したり教員が取材した材料をもとにしたりすることで、課題を「自分事」にさせ、児童自らが学習問題を立て、主体的に問題解決できるように教材との出会わせ方を工夫していく。</p> <p>△授業で資料を活用していく機会を増やし、資料を読み取り、読み取ったことを表現させる活動を多く取り入れていく。また、授業の終わりに、その時間に分かったことについて自分の考えを書く時間を作り、考察し、表現する機会を増やしていく。</p> <p>△一連の仕組みについて理解できるように資料を適切に並べ替える操作活動を行ったり、出前授業や社会科見学、体験の機会を設定したりして理解の定着を目指す。</p> <p>△単元の終末にまとめとして、社会的事象と地域社会の一員として自分がどうかかわっていくのか考える場面を継続して設定していく。</p>
算数	<p>○基本的な計算ができる。</p> <p>○図形の性質や用語についてよく理解している児童が多い。</p> <p>△あまりのあるわり算や足し算・引き算・かけ算などの桁数が多くなると正答率が下がる。また、3つの数の混合式のような手順が多い計算になったりすると理解度が下がる。</p> <p>△文章問題の正答率が低い。</p>	<p>○さらに上達できるように、100マス計算やタブレットドリル学習による反復練習をする。</p> <p>○具体物やICTを活用し、図形の特徴を視覚的や感覚的に捉えさせ、図形についての見方や感覚を豊かにする。</p> <p>△タブレットドリル学習や100マス計算、宿題などを活用して計算問題に取り組む頻度を増やし、基礎・基本の定着と計算力の向上を図る。また、手順を掲示したり、自分の考えを説明し合う活動を取り入れたりすることで、計算の順序を理解させ、定着を図る。</p> <p>△授業の中で、文章問題の題意を理解させるために図や絵・表などで問題場面を表し、それを手がかりに自力解決できるようにする。また、その図から立式させることで</p>

		文章と式の関係の理解を深めさせる。
理科	<p>○「生き物」や「植物の育ち方」の内容について、興味関心が強く、観察やお世話に主体的に取り組む。</p> <p>○「もののはたらき」「もののせいしつ」の内容について関心が高く、正しく理解している傾向がある。</p> <p>△思考を問う問題に対しての正答率を高めていくことが課題である。</p> <p>△観察や実験の技能に関する理解が低いため、正しい方法での観察や実験をし、問題を解決させていくことが課題である。</p>	<p>○今までも身近だった生き物や植物の観察を丁寧に行うことにより、その後の実験の考察を書く力を養う。</p> <p>○実験に取り組む機会を多くもつことにより、科学的事象について、知識がより定着するようにする。</p> <p>△授業中、話を聞くことや問題文を正しく読むことを繰り返し指導する。予想、実験、結果、考察のサイクルを毎回意識して授業を進める。予想したことが実験を通して確かめられるよう、実験・考察の時間を十分に確保する。</p> <p>△より科学的な思考力をともなう学習内容になるにつれて、直接見たり触ったりする機会が減り、観察や実験の技能が十分に育っていないと考えられる。直接接触れる機会を増やすことで、理解を深め、知識をより確かなものにしていく。</p>
体育	<p>○運動に対する意欲は高く、すすんで運動に取り組んだり自己のめあてに向かって努力したりする児童が多い。</p> <p>○学習の振り返りをすることにより、努力の成果を認識できた。</p> <p>△友達と互いに教え合ったり、助言を聞き合ったりし、体育の楽しさを味わえるようにする。</p> <p>△自分の課題を見付けることはできるが、それを解決するための練習方法を考えたり、練習の場を選んだりすることが難しい。</p>	<p>○児童の実態に応じて、ルールや場の設定を工夫し、児童が自ら課題を見付け、主体的に課題を解決していけるように計画立てたり、場の工夫をしたりする。</p> <p>○学習を振り返り、気付いたことや考えたことなどを友達と交流し、深める時間を設ける。また、振り返りと同時に目標を設定することで、振り返りを次時に生かしていく。</p> <p>△意図的に互いに教え合う活動を取り入れたり、チームを組んでの活動を取り入れたりすることで、互いに認め合いながら取り組めるようにする。</p> <p>△技能ポイントを視覚的に表した掲示物やICTを活用して試技を撮影したものを見て、自分に合うめあてをもたせる。また、児童のめあてに即した場を設定し、児童が主体的に選択し活動できる環境を作る。また、タブレットを活用することで、即時アドバイスし合えるようにする。</p>
音楽	<p>○音楽の表現活動に意欲的に取り組もうとする児童が多い。</p> <p>△拍にのりながら、他の音と合わせる力に課題がある。</p> <p>△読譜の能力に課題がある。</p> <p>△歌唱において、音程や発声に課題をもつ児童が見られる。</p>	<p>○鑑賞の機会を増やして、音楽に対する感性をさらに育てていく。</p> <p>△常時活動でリズムパターンを演奏する活動を取り入れ、リズムの読譜力やリズム打ちの技能を身に付けさせられるようにする。</p> <p>△新しい曲を学習する際に、楽譜をリズム打ちさせてから取り組むことで、リズムや音価を意識して取り組ませられるようにする。</p> <p>△録音を通して自分たちの声を客観的に聴く活動を取り入れ、良いところや自分たちの課題を見付け、互いに聴き合う発表の場を増やすことで、発声のイメージを育てていく。</p>
図工	<p>○全体的に、造形活動に意欲的に取り組むことができる。</p> <p>○表したいことに合わせて用具を適切に使い、材料の特徴を生かす力が育まれている。</p> <p>△既習事項を生かし、自分なりの表現方法を見付けて、表したいことを表す力をさらに伸ばす。</p>	<p>○児童が興味をもつような題材設定を工夫し、自己表現する喜びや達成感を味わわせる。</p> <p>○様々な材料や道具に触れる機会をもち、形を変えたり組み合わせたりするよさや面白さを味わわせる。用具の適切な使い方について児童が理解しやすいように、ICT機器を使いながらポイントを明確にして指導する。また、一人一人の活動の様子を見て個別に支援する。</p> <p>△一度使用したことのある道具や材料を自分たちで確認しながら、次の作品づくりに応用できるよう、場の工夫をする。既習事項を生かしている児童の作品を紹介することで、作業に取り組む意欲を高める機会を設け、経験値を高める。</p>

<p>△造形活動では、一人一人が自分の活動に自信を持ち、自分で表したいことを考えながら、活動を進めていくことができる力をさらに育てていく。</p>	<p>△黒板や電子黒板に、授業の大まかな流れやポイントを示し、児童が確認できるようにする。児童に指示する内容を精選し、説明を短くすることで、児童自らが考える時間を十分に確保する。</p>
---	---